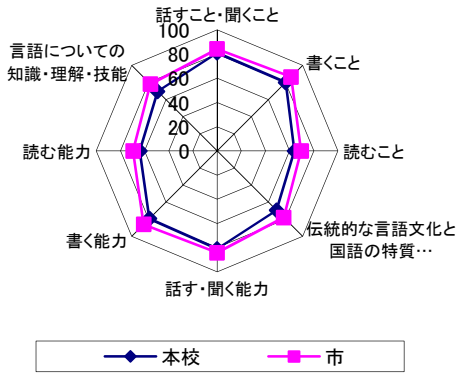


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	81.1	84.3	81.2
	書くこと	80.1	86.4	74.0
	読むこと	64.0	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.4	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	81.1	84.3	81.2
	書く能力	79.2	86.0	74.2
	読む能力	64.0	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	69.6	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

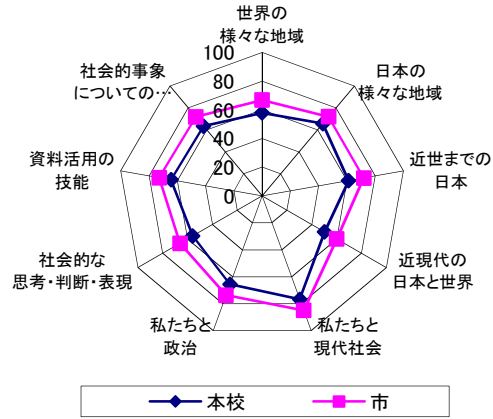
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも3. 2ポイント下回っている。 ○聞き手に理解してもらうために工夫をしたり、話の内容を正確に聞き取ったりすることができる。 ●話し合いの流れを的確にとらえて、司会者として適切な発言をするなど、発展的な内容に課題が残る。	・聞き取りテストを今後も継続させ、話の内容を的確に聞き取る練習をしていく。 ・授業以外でも、日常生活の話題について発言、発表の機会を意図的に設け、実践力をつけていく。
書くこと	本校の正答率は、市の正答率よりも6. 3ポイント下回っている。 ○自分の立場を明確に書くことができる。 ●目的や意図に応じて、その根拠となる自分の体験を具体的に示しながら書くことに課題がある。条件作文そのものに根強い苦手意識をもっている生徒も多い。	・自分の考えを明確にして、意見や感想を簡潔にまとめる練習を多く取り入れ、「書くこと」そのものへの苦手意識を取り除いていく。 ・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。
読むこと	本校の正答率は、市の平均正答率よりも5. 5ポイント下回っている。 ○展開に即して、構成や内容をとらえることができる。また、登場人物の心情をとらえることができる。 ●説明文の内容を整理したり、登場人物の様子から、その心情を推測したりするなど発展的な内容を苦手とする生徒が多い。	・内容を正確に理解するために、指示語の内容を具体的にして読んだり、接続語のはたらきに注意して段落相互の関係を的確につかんだりする力をつけさせる。 ・言葉のまとまりや全体の構成を意識させるため、様々な形の音読を積極的に取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校の正答率は、市の平均正答率よりも8. 5ポイント下回っている。 ○「読み」の中でも、訓読みするものは比較的できている。 ●「読み」の中でも、第3学年で学習する「輪郭」は47. 2ポイントしか読めていない。「書き」では、小学校既習の漢字である「招待」「志望」などの熟語の書き取りにつまづきがある。	・学年配当の漢字を継続的に学習するプリントを作成し、定期的に確認テストを実施し定着を図る。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	57.9	66.8	54.1
	日本の様々な地域	65.7	72.1	63.4
	近世までの日本	61.1	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	50.3	60.0	55.2
	私たちと現代社会	76.8	85.0	73.0
	私たちと政治	65.6	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.0	66.1	52.0
	資料活用・技能	64.4	72.8	63.0
	社会的現象についての知識・理解	63.5	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

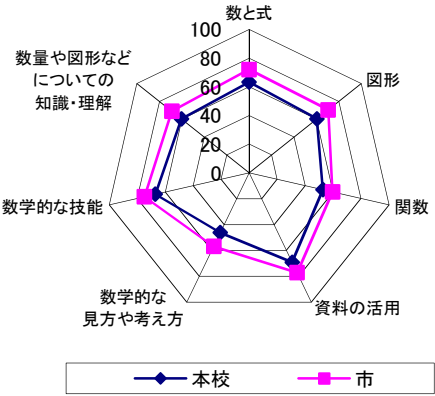
領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	○全体として、昨年度の校内平均正答率よりも上昇した。特にアジア州の人口分布に関する図の読み取りは正答率70%をこえている。 ●貿易相手の変化についての理由を考えるなど、なぜそうなったかを考えることが苦手である。	・資料の読み取りに関しては、今後も授業で継続して指導していく。(資料集の活用、ワークシートの工夫など)
	日本の様々な地域	○昨年度の校内平均正答率よりも上昇した。ほとんどの設問で、市の平均とほぼ同等である。自然災害についての設問の正答率は80%、人口に関する設問についての正答率は70%をこえている。 ●グラフの読み取りが苦手な生徒が多い。特に雨温図の読み取りに関しては、市の平均を大きく下回った。	・資料の読み取りに関しては、今後も授業で継続して指導していく。(資料集の活用、ワークシートの工夫など) ・知識をもとに資料を判断する力を身に付けさせる必要があると感じる。新しい単元に進んでも、既習の内容との関連を意識付けする。(小テスト、単元テストの実施など)
歴史	近世までの日本	○縄文時代の遺跡に関する設問については正答率90%をこえている。 ●奈良時代、平安時代など1年生で学習した内容についての定着が不十分である。 ●資料を読み取り、文章で記述する設問についての正答率が低い。	・歴史的事項については人物名などの暗記になりやすい。人物や出来事を関連づけ、歴史の流れを理解できるように授業を工夫する。 ・教科書や資料集を活用し、歴史的資料の内容がどのようなものであるのかを理解させる。また、その資料がどのような背景で出されたものであるかも授業内で取り上げていく。 ・短文記述については、小テストなどを活用して力を身に
	近現代の日本と世界	●全体として正答率が低い。明治時代以降の歴史の流れ、諸外国と日本との関連などが知識として定着していない。	・近現代の歴史の流れを年表などで確認する。 ・日本での出来事と世界での出来事を比較できるよう、年表を活用する。 ・明治以降は出来事も多いため、知識を定着させるために小テストを実施する。
公民	私たちと現代社会	○おおむねよくできていた。特にフランス人権宣言と公共の福祉を回答する問題については80%以上の正答率であった。	・現代社会についてや人権についてはよくできていた。
	私たちと政治	○裁判のしくみについては正答率は77%であった。 ●法律案が成立するしくみや地方自治については正答率が市の平均を10%以上下回っている。	・政治分野は用語のみではなく、法律案の改正に必要な人数や条例の制定・改廃に必要な人数など、さまざまな数字がでてくる。ここを重点的に整理できるように、ワークシートなどを工夫し、定着をはかっていく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.2	72.1	70.7
	図形	60.4	70.5	58.1
	関数	52.8	59.6	52.1
	資料の活用	69.2	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	46.2	56.9	47.7
	数学的な技能	67.0	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	60.3	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

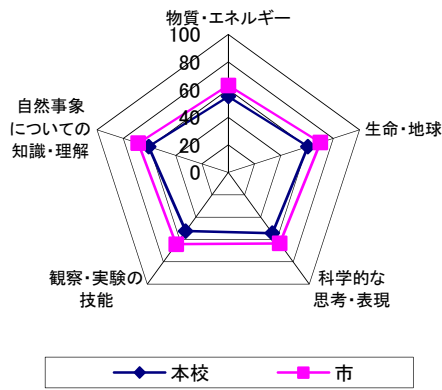
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学的な技能を観点とする計算問題は、約70%が解くことができています。 ●活用の面で、文章問題に対して立式したり意味を説明したりする問題の正答率が低い。	・学習内容が進んでも、既習事項をおさえながら、定着度に応じた計算練習をワークシートを工夫しながら行う。 ・計算上の規則だけを強調するのではなく、それが成り立つ理由を丁寧に教える。
図形	○空間図形における辺の位置関係は理解されている。 ○相似な図形の活用で、証明の結論や性質を利用できている。 ●証明問題での記述で、無解答や証明につながらない解答が70%近い。	・証明問題については、書くことに対して面倒くさいという意識が大きい。何に注目したらよいのかなど、論証の筋道を丁寧に指導する。初めは、パターンの練習を行っていく。
関数	○身近な事例が多い比例関係を式に表す問題の正答率が、80%である。 ●2乗に比例する関数では、文章問題を読み取り活用することができていない。	・ともなって変わる2つの数量には、いろいろな関係があることに興味を持たせる。表に表された関係を式で表すことができることと、グラフで視覚化できることのよさと関連を繰り返し教える。
資料の活用	○くじに関する確率の問題は、89%の正答率である。前年度の校内平均正答率よりも高まった。 ●1年の相対度数など、用語の意味が定着しておらず表すことができない。	・確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。 ・身の回りの題材からグラフ化したり、分析をしてみたりすることを通して、相対度数、階級、代表値等の用語を身近に感じられるようにする。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	55.1	63.0	57.9
	生命・地球	60.6	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	54.4	63.5	57.5
	観察・実験の技能	52.6	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	60.6	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

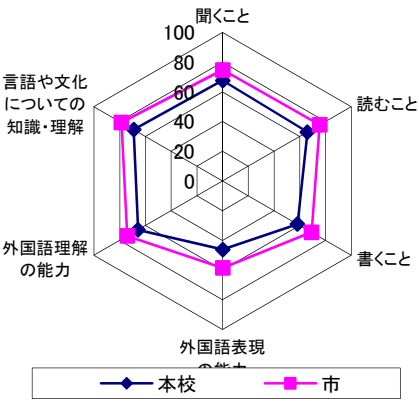
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○有機物と無機物の違いや、電力量の求め方や単位など、知識・理解に関する問題は市の平均を上回っている。 ●エネルギー分野が全体的に正答率が低い。特に、音の性質に関する問題や台車の平均を求める問題が低い。 ●観察・実験の技能に関する問題の正答率が低い。	・計算問題に苦手意識がある生徒が多いので、計算や作図などの基本的な問題を繰り返し練習することで定着を図る。 ・観察・実験を目的をもって意欲的に取り組むようにするために、ねらいを明確にした授業を行う。
生命・地球	○生物の成長に関する知識の問題では、市の平均を上回っている。 ●植物や動物を特徴によって分類する問題で、正答率が非常に低い。 ●天気に関する問題については全般的に正答率が低い。	・単元・小単位ごとに、小テストや問題演習を取り入れるなどして、理解を図る。 ・関心は決して低くない内容なので、より考える力を身につけさせるために、考察やデータの活用を工夫する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.6	74.8	66.0
	読むこと	65.9	75.5	66.9
	書くこと	58.1	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	46.2	58.5	53.9
	外国語理解の能力	65.7	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	69.2	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●全体として市全体の平均を下回り、平均正答率が7. 2ポイント低くなっている。 ○英文の要点を聞き取り、将来の希望を聞き取る問題では、市の平均とほぼ同様に90%を超えている。	・授業時間に、できるだけCDやALTとの英語を聞く機会を増やし、英語を聞くことに慣れるようにする。また、さまざまな場面設定において、予測しながら聞き取るトレーニングを増やしていくようにする。
読むこと	●全体として市全体の平均を下回り、平均正答率が9. 6ポイント低くなっている。 ○代名詞の内容を把握する問題では、市の平均とほぼ同様に90%近くできている。	・英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じる問題を苦手としているので、場面に応じた答え方を練習する必要がある。
書くこと	●全体として市全体の平均を下回り、平均正答率が11.0ポイント低くなっている。 ○受け身の文で、語形・語法を理解する問題では、市の平均には及ばないが、85%を超えてできている。	・疑問詞の復習をし、場面に応じた英文が書けるようにする。また、語彙力を上げるために、単語の復習をこまめにするようにする。